

## 第 85 回全国健康保険協会香川支部評議会議事録（概要版）

開催日時：令和 8 年 1 月 16 日（金）10：00～12：00

開催場所：香川支部 会議室

評 議 員：長山評議員（議長）、西尾評議員、芳我評議員、原田評議員、  
藤井評議員、藤岡評議員、松木評議員、三好評議員  
（欠席）古屋評議員（副議長）

（五十音順）

### 議事

#### ○協議事項

1. 2025（令和 8）年度都道府県単位保険料率について
2. 2025（令和 8）年度支部事業計画（案）、支部保険者機能強化予算（案）  
支部広報計画（案）について

#### ○報告事項

1. インセンティブ制度に係る 2024（令和 6）年度実績について
2. 協会けんぽ香川支部からのお知らせ

#### ○その他

- ・協会けんぽ香川支部の概要

#### ○協議事項

協議事項 1. 2026（令和 8）年度都道府県単位保険料率について

#### 【事務局より資料に基づき説明】

#### 【被保険者代表】

少しでも保険料が引き下がることは被保険者にとってもありがたい。

#### 【被保険者代表】

保険料率が 10%を切ることはしばらくなかった。また準備金も積み上がっているの、  
今後の財政状況を確認しながら保険料率の引き下げを検討してほしい。

#### 【事業主代表】

保険料率が下がっても、給与が上がれば保険料の負担は増えることになる。

**【事業主代表】**

保険料率は下がる一方で、子ども・子育て支援金制度の支援金率が加わることにより、保険料の負担額は実質的に増えるため、純粹には喜べない。

**【学識経験者】**

子ども世代への投資については、消費税が 10%に引き上げられた際に全員で負担をしようとなっていたと思うので違和感はあるが、医療制度を維持していく上で、経営が厳しい医療機関に対して、どのような保証を行っていくのか等を考えると、保険料率を下げればよいという問題でもない。ただし、十分に議論を重ねた結果だとは思っているので、そこは評価したい。

**【議長】**

準備金も積み上がっており、少しでも保険料率を下げてほしいという意見もある一方、子ども・子育て支援金の財源の確保も必要である。社会的状況を踏まえて総合的に判断した結果と思われるので、令和 8 年度の香川支部保険料率 10.02% について妥当であるとしてよろしいか。

(異議なし)

**【事務局】**

子ども・子育て支援金については、納付金であるため、介護保険料と同様で国から示された金額等を納付する仕組みである。

**【被保険者代表】**

- ・従業員に香川支部の保険料率は 10.02%に下がり、子ども・子育て支援金制度の支援金率が 0.23%加わったと説明をしても、従業員が給与明細書を確認するときには、保険料全体として多く引かれて、手取りが減っていることに重きを置いているのが実情である。
- ・健康保険料と子ども子育て支援金は給与明細書では、まとめた金額で表示されるのか。

**【事務局】**

資料 43 ページに記載されているように、事業主の方へのご協力になるが、給与明細書に医療保険料と区別して支援金額を表示するようにお願いしたい。

協議事項 2. 2026（令和 8）年度支部事業計画（案）、支部保険者機能強化予算（案）、支部広報計画（案）について

【事務局より資料に基づき説明】

【議長】

外国人労働者の対応について、香川県ではベトナム・インドネシア・フィリピン国籍などが多いと思われるが、支部に来訪された際の対応が難しいのではないかと。

【事務局】

外国人の対応については、現在、22 か国語対応の電話相談システムがすでに構築されているので、外国人加入者が窓口に来訪された際には、職員がそれを使用して三者で通話をしながら相談できる体制が整っている。

【被保険者代表】

コスト削減の表記について、物価が上がってもなかなか価格転嫁ができてにくい中小企業にとって、競争入札等により少しでも金額を抑えるという部分には違和感を覚える。

【事務局】

国からの補助金や加入者からの保険料で調達を行うため、コストを意識した契約を心がけなければならないが、記載や表現方法については検討させていただく。

【事業主代表】

生活習慣病予防健診の実施率と事業者健診データの取得率とあるが、そもそもこの二つの違いを理解している経営者が少ない。この二つの違いについて、あらゆる機会を通じて分かりやすい説明をしてほしい。その際、商工会議所としてできることは協力したい。

【事務局】

特定健診とは労働安全法の事業者健診で定められた 11 項目の健診が基本だが、生活習慣病にはがんの検査項目が含まれている。そこに対する広報が不足していること、事業者健診との制度の違いを経営者の方が理解していないことについては、機会を通じて説明を行っているが、今後より一層力を入れて取り組んでいきたい。

また、県内の健診機関を通じて事業者健診を受けた方に生活習慣病予防健診へ切替えを促す事業を継続して実施している。

【学識経験者】

けんぽアプリについては、当面は電子申請が中心であるという印象を受けているが、今後に向けて健康改善や保健指導を実施していくための効果検証をされている過程かなと思っている。ぜひ従業員の皆さまがアプリを活用して、自身の健診データを保管し自分事としてチェックできるように機能の充実を図っていただけたらと思う。

【事務局】

現時点では機能は限られているが、将来的には健診の申込みなど、時間をかけて拡大していく。

○報告事項

報告事項 1. インセンティブ制度に係る 2024（令和 6）年度実績について

【事務局より資料に基づき説明】

（質問・ご意見なし）

報告事項 2. 協会けんぽ香川支部からのお知らせ

【事務局より資料に基づき説明】

【被保険者代表】

- ・バイオシミラーはジェネリック医薬品の一部という認識でよいのか。
- ・ジェネリック医薬品は院内処方と院外処方のどちらもあるが、バイオシミラーは特に注射剤が多く、院内処方のため病院へアプローチするという理解でよいのか。

【事務局】

- ・バイオシミラーはバイオ医薬品と同一成分でなく、製造方法も複雑でありジェネリック医薬品とは相違している。バイオシミラーは、がんやリウマチなどに処方される医薬品で、日本で認可されているのは 20 個ほどであり、そのほとんどが院内で処方されている。
- ・パイロット事業で先行した 10 支部が医療機関へ訪問したところ、医師がバイオシミラーのことを患者へ説明しても知らないケースがほとんどなので、保険者に広く広報をしてほしいという意見も出ている。

○その他

協会けんぽ香川支部の概要

【事務局より資料に基づき説明】

(質問・ご意見なし)

以上

令和8年1月16日